

2016年4月熊本地震 車中避難をされておられる方々への支援のためのアンケート 主な知見

2016年5月9日

ところをつなぐ「よか隊ネット」調査責任者:稲月正(北九州市立大学)

1. 車中避難を始めた事情

- ①車中避難の理由の主たるものは「余震への不安」と「家屋の損壊」であった。
- ②建物の状態(全半壊)とは独立に「不安」要因も避難行動に影響を与えていた。

2. 避難所ではなく車中避難を選んだ理由

「避難所での生活よりも車中避難の方がよい」理由としては、「プライバシーが守れない」「小さい子ども、高齢者、障がいを持った人がいるため周囲に気を遣う」「ペットがいる」「建物は怖い、車の方が揺れが少ない」「自宅に近く安心」といった回答が多かった。

3. 車中避難で困っていること

- ①「困っていること」として「衛生・健康に関すること(トイレ、お風呂、健康)」「情報・相談に関すること(必要な情報が届かない)」「生活への不安」をあげる人が多かった。
- ②自由回答からは、エコノミークラス症候群をうかがわせるものや「心臓の持病があるが病院と連絡が取れず、薬もあと1週間分しかない」といった深刻なものもあった。

4. 車中避難をやめるために必要なこと

「車中避難をしなくてすむようになるために必要なこと」として「精神的な不安の解消」「自宅の改修・耐震工事や片付け」「公営住宅や仮設住宅への入居」をあげる人が多かった。特に自宅が「全・半壊」の人では「公営住宅や仮設住宅への入居」をあげる人が約7割に達していた。

5. 行政からの説明

車中避難の場で行政(県や市の職員)からの説明や状況の聞き取りを受けたことが「まったくなかった」と答えた人は約8割であった。

6. 行政への要望

「行政への要望」として多かったのは「仮設住宅の確保」「住宅等の修理費用の補助」「情報の提供」「避難所間の格差解消」に関する事柄であった。

7. 今後の生活の見通し

「今後の生活の見通し」が「まったく見えていない」「あまり先が見えていない」人は約6割であった。中でも自宅が「全・半壊」の人では、その比率は約9割に達していた。